

\*\*\*\*\*

## 新任教員自己紹介

### 井頭昌彦先生の自己紹介

一橋大学哲学・社会思想学会の皆様、本年 4 月 1 日に社会学研究科・専任講師として着任しました井頭昌彦（いがしら・まさひこ）と申します。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

以下、経歴→研究内容の順で簡単に自己紹介をさせて頂きたいと思います。

経歴は、哲学研究者としてはやや風変わりかもしれません。まず、大学入学時は東北大学の理学部で物理学を学び、卒業研究ではニューロンの軸索伸長メカニズムを解明する生物物理学的研究に従事しました。その後、同大学文学部に学士編入して野家啓一先生のもとで分析哲学を学び、2008 年に「多元論的自然主義の可能性」と題した論文で博士号を取得しました（なお、こちらは日本科学哲学会・石本基金の出版助成を取得した上で 2010 年に新曜社から出版されています）。

学位取得後は、学部時代に指導を受けていた先輩の紹介で、阪大の生命機能研究科で進められていた異分野融合型の大規模プロジェクトに雇用して頂きました（内容は「生物学の知見を情報・機械工学に援用する」という主旨のものでした）。そこからさらに、同大基礎工学研究科で実施されている GCOE プログラム（「ロボット工学・認知科学・脳科学の融合研究拠点をつくる」という主旨のもので）で雇用して頂くことになり、プロジェクトマネジメント／科学哲学的な実態調査／哲学を組み込んだ異分野融合研究などに取り組んできました（ちなみに基礎工学研究科には「招聘准教授」という形で所属が続いています）。

これまでの所属を並べてみると、理学部（物理学）→文学部（哲学）→生命機能研究科（生物学）→人間科学研究科・基礎工学研究科（認知科学・ロボット工学）→社会学研究科（哲学）と、一所に落ち着かない感じですが、それでも、問題意識の中心は理学部在籍当時から一貫して哲学的なものであったと自分では考えています。それは「自由意志と決定論」の問題であり、より一般性の高い形で述べなすならば「科学主義の妥当性」をめぐる問題です。今後も、様々な分野の研究者と連携しながら、より

腰を据えた形で、こういった大きな問題に取り組んでいければと考えています。

以下、研究内容の紹介です。研究のメインフィールドは分析哲学で、「哲学と科学の連続性」をスローガンとして掲げる哲学的自然主義をベースに、認識論・存在論・科学哲学の諸問題に取り組んできました（ただし、私自身としては、「哲学と科学の連続性」自体は受け入れつつも、科学主義や物理主義といった狭隘な立場とは一線を画した「多元論的自然主義」という立場が有望なのではないかと考えています）。この取り組みは、今後の研究の軸の一つとして継続していきたいと考えています。もう一つの軸は、異分野の研究者と問題意識を共有した上で相互に知見を提供しあいながら研究を行う「応用哲学」的な取り組みです。現在は、Philosophy of Mind の領域における研究蓄積や私自身のアイデアを工学者サイドに提供しつつ、「ロボットを通じた人間理解」の研究を進めています。今後、エスノメソドロジストや社会心理学者と連携した取り組みも立ち上げる予定です。

私自身、まだまだ修練が必要ですが、研究においては、研究内容そのものの質の高さはもちろんですが、「できるだけわかりやすく、明晰に論ずる」ということも非常に重要だと考えています。これは分析哲学において重視されている基本的価値でもあります。私自身の場合には、異分野の研究者に自分の研究内容を説明する機会が多かったことでより一層重視するようになった、という面もあると思います。いずれにせよ、主張内容とその論拠がはっきりしていないと、相互批判や建設的な議論ができなくなりますし、結果として研究の蓄積や展開も難しくなります。哲学・社会思想は幅の広い分野なので、研究対象によっては同一分野内でも基本前提等で多くのすれ違いが生ずると思いますが、そういったすれ違いを埋めるべく、できるだけ明晰に議論できるよう心がけていきたいと考えています。

伝統ある一橋大学で皆さんと一緒に研究させて頂くのは大変楽しみです。どうぞ宜しくお願い致します。

(井頭 昌彦)

~~~~~  
【学会代表幹事】 嶋崎 隆 森村 敏己

【学会事務局】 干場 薫 色摩 泰匡 南 孝典